

# 河川管理レポート



江戸川



中川



綾瀬川

国土交通省江戸川河川事務所管内で行っている河川の維持管理をご紹介します。

## ① 洪水に備えて堤防の点検をしています

出水期\*前、台風期の適切な時期に、徒歩を中心とした目視により、堤防や護岸に変状が発生していないか、点検を実施しています。  
※雨量が多く洪水が発生しやすい6月～10月までを出水期としています。

### 堤防ってなんだろう？

川の流れ（洪水）を氾濫させないために、土を盛り固めて築造したのが堤防です。また、堤防斜面が川の流れて侵食されないようにコンクリートブロックなどで保護しているのが護岸です。

### もし堤防の点検をしなかったら…

もし堤防の点検を怠ると、堤防の亀裂や陥没が進行します。その状態が続けば、洪水時に堤防が決壊する危険性も高まります。

## ④ 河川の巡視（河川パトロール）を行っています

河川の機能が維持できるよう、日頃から河川の巡視を行い、河川の異常箇所や変化などの状態を把握しています。

### 河川巡視で何をみてるの？

- 平常時の河川巡視は、以下の①～④を目的に、河川の巡視を実施しています。
  - ① 河川区域等における違法行為の発見
    - 不法投棄
    - 道路舗装のクラック
  - ② 河川施設の変状等の確認
    - 対策前
    - 対策後
  - ③ 河川利用に関する情報収集
    - 河川敷利用（大風あげ祭り）
    - 野鳥の飛来
  - ④ 河川環境に関する情報収集

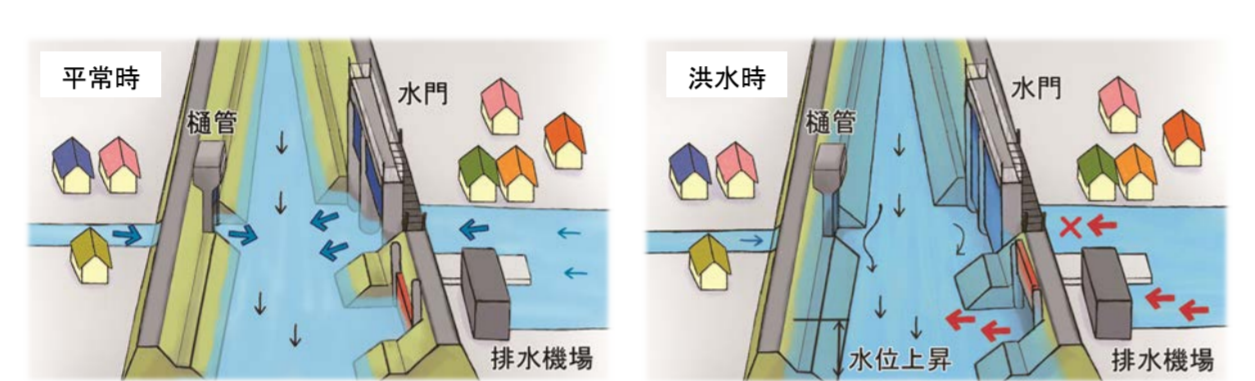
● 洪水時の巡視は、堤防の異常や河川施設の被害の発生状況を把握するために行います。

## ② 樋管、水門などの河川施設を点検しています

河川には洪水から人々の暮らしを守るために必要な河川施設（樋管・水門・排水機場など）が多く設置されています。

### 河川施設の役割ってなに？

● 大雨で江戸川などの水位が高くなると、市街地に水が流れ込まないようにゲートを閉めたり、排水機場のポンプで市街地側の水を江戸川などへ排水して、市街地を浸水から守ります。



### もしゲートや排水機場が正常に動かなかったら？

● 施設に不具合が発生しないように、定期的な点検と維持修繕が必要です。

## ⑤ 不法投棄を減らすための取り組みを行っています

みんなが気持ちよく河川を利用できるよう、不法投棄の発見や撤去を行うとともに、行為者へ指導するなど、法令等に基づき適切かつ迅速に不法行為の是正のための措置を行っています。

### ゴミは持ち帰りましょう！

- 河川に不法に投棄されたゴミは、地域の景観や環境を損なうだけでなく、洪水時には堤防や施設の損傷など、河川管理の上でも大きな問題です。
- 不法投棄を未然に防止するため、河川巡視を実施するとともに警告看板の設置等を行っています。平成26年度は633件のゴミの不法投棄が発見されました。（※平成26年12月時点）
- いつまでもきれいな江戸川、中川、綾瀬川を残すために、必ずゴミは持ち帰るようにしましょう。

様々なゴミが投棄され、景観や環境を損ねています。これらのゴミは洪水時には河川の施設にも影響を及ぼします。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

## ③ 河川を安全に利用するための点検をしています

河川利用者が多くなるゴールデンウィークと夏休みの前に、河川を安心して利用できるよう、安全利用点検を実施しています。

### なぜ安全利用のための点検をするの？

- 江戸川・中川・綾瀬川は、年間利用者が江戸川（利根運河含む）で約917万人（H21年調べ）、中川・綾瀬川で約170万人（H21調べ）であり、非常に利用者が多い河川です。
- 河川は利用者の自己責任のもとで自由に利用できますが、「水に親しむこと」を目的として整備した施設や利用者の多い箇所については、住民の方々が安全に利用できるよう点検を行うことが必要です。

例えば、河川には利用者の安全に配慮した転落防止柵や注意看板等が設置されていますが、これらが破損してしまうことがあります。

日常的な巡視に加え、安全利用点検で異常を発見し、対策の実施により安全な利用を維持しています。

## ⑥ 水質事故に備えた取り組みを行っています

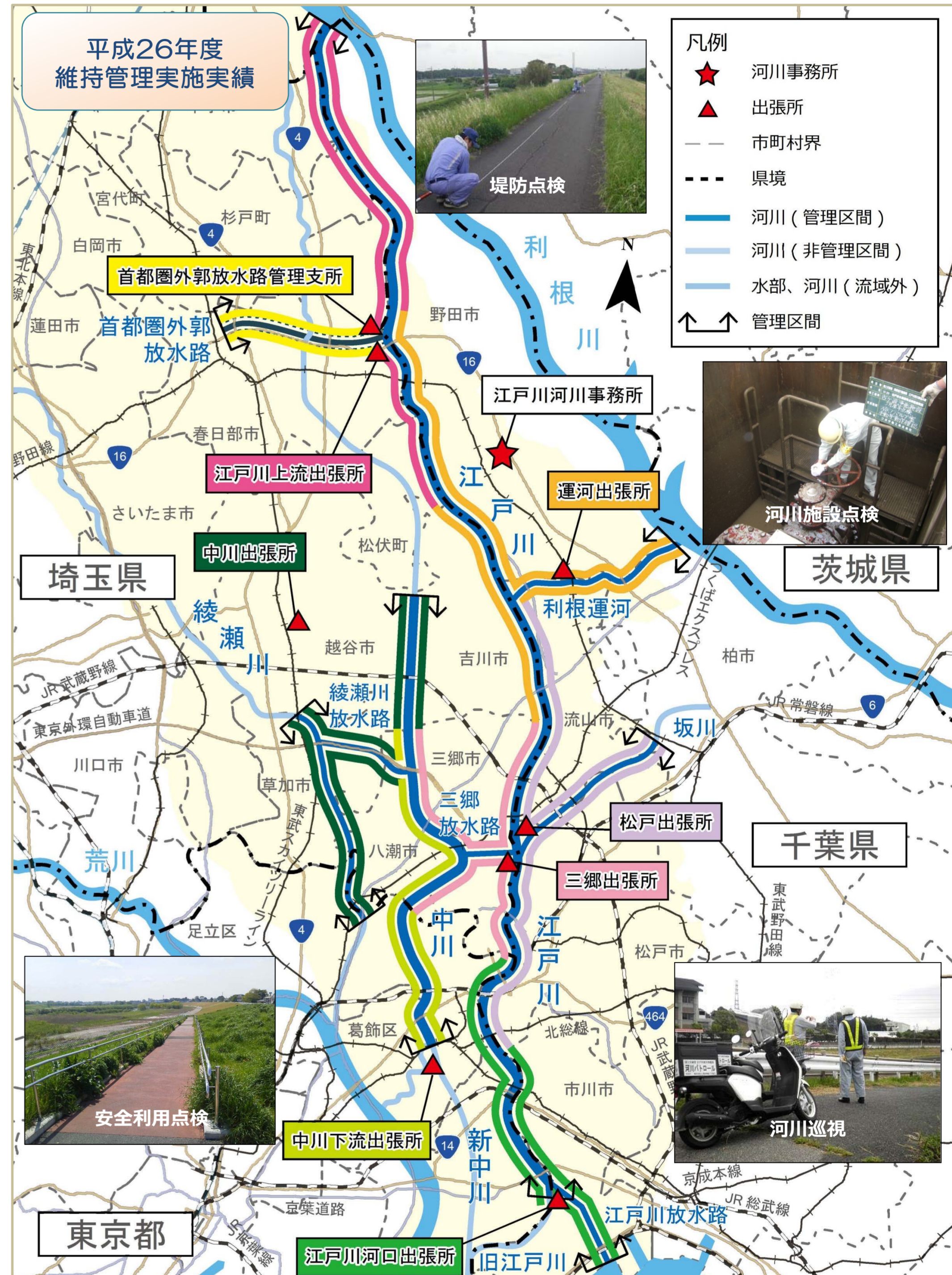
河川は水道水源であるとともに、魚などの水生生物のすみかにもなっており、常に良好な生息・生育・繁殖環境を維持しなければなりません。

### 水質事故が起きるとどうなるの？

もし油等の危険物が河川に流れてしまうと、魚が死んだり、断水になったりします。

被害を最小限に抑えるため、事故が発生したらすぐに対策を実施しています。

- 平成26年度の江戸川・中川・綾瀬川に関する水質事故発生件数は50件にのぼり、このうち「油類の流出事故」が35件と約7割を占めます。（※平成26年12月時点）
- このようなことが起きないように、日頃から異常の早期発見に努め、事故発生時には被害が拡大しないよう発生源調査や流出対策を実施しています。



	④河川巡視 記録数	⑤不法投棄 発見件数	⑥水質事故 発生件数
※平成26年12月時点	4,408件	655件	51件

